

環境学研究科  
地球環境科学専攻  
地球化学講座

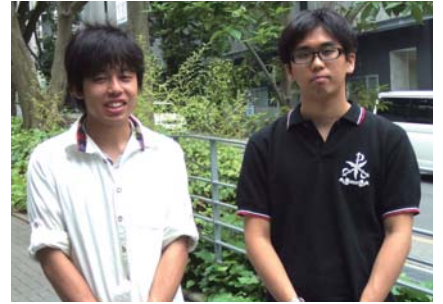
永田 啓晃さん 博士課程前期2年  
石田 大也さん 博士課程前期1年

フィールドに出て、心に刻む

様々な化合物、化学元素、同位体を用いることで地球環境の解明をめざす地球化学講座で、先輩・後輩の間柄である永田啓晃さんと石田大也さん。1990年以降急激に開発が進んだモンゴルで、鉱山汚染と環境とのかかわりを研究調査する永田さん。地元、三河湾・伊勢湾を中心に、アサリに含まれる金属濃度から海の汚染とのかかわりを調査する石田さん。研究テーマはちがっても、それぞれのフィールドに出て、実際に自分の目で確かめることの大切さは、お互い肌で感じている。

知多半島、渥美半島の海岸で、ある時は潮干狩りの人たちに混じって貝や海水をサンプリングする石田さん。「貝は排せつが早いので、その時々海の環境が反映される。だから季節ごとに調べれば海の金属汚染の指標がわかるんです」。情報をもとにサンプリングに出かけても、実際の海は青潮でダメージを受けていたり、本州でも最大級の汐川干潟で、その大きさ、生きものの豊かさを実感したり。一方永田さんは年1回モンゴルに出かけて河川水や川の中の堆積物を分析し汚染の原因を調査しながら、環境保全と開発が両立する方向性を模索する。「テント生活は大変だけど、現地の人ともふれあえて、なにより自分の足で現場を見て得られることは多い」。

フィールドから持って帰るものはデータやサンプルだけではない。何かを感じ、心に刻んで、それぞれの視野を広げている。



石田さん(左)と永田さん



汐川干潟で二枚貝の採取



 名古屋大学

〒464-8601

名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院環境学研究科

TEL.052-789-3455

www.env.nagoya-u.ac.jp/

